

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

初等・中等教育段階における、従来の進路指導(職業指導)の理論的展開および実践上の成果等を分析し、その問題点を検討するとともに、これからの進路指導(職業指導)の課題と望ましい在り方について考察することを目的とする。

【授業キーワード】

職業、職業構造、進路指導、進路選択、学歴社会

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、随時、講義時間内に課題作成を課す。また数回レポートを課す。

【授業項目】

1. 職業とは何か
2. 人間社会と職業
3. 現代社会の職業構造
4. 学歴社会の職業的自己実現
5. 学校教育と職業指導
6. 職業指導と進路指導
7. 職業指導の歴史と発展
8. 職業指導の基礎理論
9. 職業指導の方法と技術
10. 学校における職業指導の現状
11. 諸外国における職業指導
12. 職業指導の課題と展望
11. その他

【教科書】

教科書は指定しない。随時プリントを配布

【参考書】

「現代の職業と教育」有本 章編、福村出版
「入門 進路指導・相談」仙崎 武・野々村 新他編、福村出版

【成績の評価方法と評価項目】

概ね次のような割合に基づいて評価する。
期末試験(60%)・中間試験(40%)

【留意事項】

教科:工業(高校)の教員免許状を取得するための必修科目である。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

社会情勢の種々の変化に伴い、教員免許法の改正、完全週休二日制の導入など、現代の学校教育をめぐる動きは激しく、且つ諸々の課題が山積しているのが現状である。こうした中で、初等・中等教育段階における教師の役割・任務もますます重要になってきている。本講では歴史的考察も踏まえながら、現代社会における教職の現状・課題・展望についてグローバルに考察する。

【授業キーワード】

教師、教員の種類、教科指導、教員研修、教員養成

【授業内容及び授業方法】

講義形式とするが、レポートおよび討議形式も併用する。

【授業項目】

1. 教職の意義と教員の使命・資質
 - 1) 教師の歴史と教師論
 - 2) 教職の歴史と教員の資質の変遷
2. 教員の仕事と役割
 - 1) 教員の種類と職階
 - 2) 教科指導と教員
 - 3) 教科外指導と教員
 - 4) 学級経営・学校経営・校務分掌と教員
3. 教員の研修と服務規程
 - 1) 教員の資質能力の形成と研修
 - 2) 教員の服務規程と身分保障
 - 3) 学習指導要領と教員
4. 初等・中等教育と教員
 - 1) 幼稚園の教員
 - 2) 小・中学校の教員
 - 3) 高等学校の教員
 - 4) 盲学校・聾学校・養護学校の教員
5. 教員養成と教職課程
 - 1) 教職課程とその履修方法
 - 2) 教職とその適性
6. その他

【教科書】

未定

【参考書】

「日本の教師」中野 光・寺崎昌男編 ぎょうせい

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(80%)・レポート(20%)により評価する。

【留意事項】

講義中、折に触れて教職課程のガイダンスも行いますので教員免許状取得希望者はできる限り受講すること。
※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

教育は、広義に定義するとすれば、文化の伝達および社会の存続・発展と密接に係わる重要な社会的機能の一つであるといえる。それゆえ教育という営みは単に学校教育という狭い空間にのみ適用される概念ではなく、人間存在の根幹および人間社会の全般に深く関わり、国家の存立基盤を構成する重要な一要素であると考えられる。学校教育はその一翼を担うものであると言えよう。本講義においては、学校教育に限定せず、グローバルな視点に立って、人間存在および国家社会の在り方と教育との関係を探りつつ、教育の本来的な構造と原理を考察することがねらいである。

【授業キーワード】

教育、人間、成長と発達、国家社会と教育、学校教育

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主とするが、適宜討論形式も併用する。随時レポートを課す。

【授業項目】

1. 教育の意義
2. 人間と教育
 - 1) 人間とは何か
 - 2) 成長発達と教育
 - 3) 文化と教育
 - 4) 人間社会と教育
 - 5) 国家と教育
3. 教育の本質と目的
 - 1) 教育の理想
 - 2) 教育目的の歴史的変遷
4. 学校の教育
 - 1) 学校の歴史
 - 2) 学校の意義と機能
5. 現代の公教育
 - 1) 国家と教育政策
 - 2) 公教育の法規
6. 教育の内容と方法
 - 1) 教育の内容・方法を規定する要因
 - 2) 教育の内容・方法の変遷
7. 教育の制度
 - 1) 近代教育制度の原理
 - 2) 現代の教育体制
8. 現代における教育の課題と展望

【教科書】

未定：開講時までに選定

【参考書】

「現代社会と教育」 堀尾輝久 岩波新書
「最新教育原理要説」 鈴木博雄 振学出版
「教育原理・教職論」岡田正章他 酒井書店・育英堂

【成績の評価方法と評価項目】

概ね次のような割合で評価する。
期末試験(60%)・中間試験(30%)・レポート(10%)

【留意事項】

次年度に教育実習を受講したいと考えている場合には、この科目の単位を前年度末までに必ず修得しておくこと。

教育史
History of Education

講義 1単位 2学期

【担当教員】

未定

【留意事項】

※H18年度は開講せず。

【担当教員】

三宅 仁

【教員室または連絡先】

体育・保健センター107室(内線9822 E-mail:miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

本講義においては教育心理学と青年心理学の両者を扱う。すなわち、教える者と教えられる者の心理学である。両方の立場から考えることは、将来教師を志す者にとっては重要な視点を与えるものと確信する。また、青年期は子供から大人への発達段階においてもっとも重要な時期である。このような対象についてその心理的特性を十分知っておくことは、教育現場での単なる知識の授与技術のみならず人間形成においても重要である。

達成目標:

本講義においては人格形成などの心理的特性のみならず、性的成熟などの身体的発達も含めて広く総合的に理解し、カウンセリングの基礎知識獲得を目指す。

【授業キーワード】

教育、青年期、心理学、カウンセリング

【授業内容及び授業方法】

授業内容:

心理学概論、教育心理学、青年心理学、精神病学、カウンセリング論

授業方法:

毎回前半講義、後半対話的・討論的進行とする(いわゆるゼミ形式)。

【授業項目】

Introduction(教育心理学と青年心理学－教える者と教えられる者の心理学)

§1 心理学とは? 青年期とは?

§2 心理学的方法論－心理検査法、性格テスト

§3 成長と発達

§4 学習と学習・教授過程

§5 教育評価

§6 教師の役割

§7 学童・青年期の心理と行動

§8 人格形成と問題行動

§9 青年期の健康と性

§10 精神医学的方法論・精神病理

§11 問題解決

各1～2回

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

梶田叡一「教育心理学への招待」ミネルヴァ書房、久世敏雄「青年の心理と教育」放送大学教育振興会、鈴木康平・松田惺 編「現代青年心理学」(新版)有斐閣 など

【成績の評価方法と評価項目】

評価方法:毎回の参加態度による。

評価項目:出席(30%)+意見発表(70%)

【留意事項】

資料を配付するので適当な整理ファイルを用意すること。

【参照ホームページアドレス】<http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/LEC>

【担当教員】

村田 直樹

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

教職における教養として、学校教育を中心に教育体系及び教育政策の動向について学ぶとともに、これらの法的手当てについて考察することによって教育法規についての知識と理解を深めることを目的とする。

【授業キーワード】

公教育制度、教育政策のツール、教育機会の均等、質の高い教育の提供、教育法規、教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法

【授業内容及び授業方法】

講義を中心として行い、必要に応じて小テストにより理解度を確認する。
また、小論文の作成を通して学生の教育問題に対する関心を高める。

【授業項目】

1. 教育政策のツール
2. 教育政策の課題:教育の機会均等、質の高い教育の提供等
3. 諸外国の事例
4. 教育法規の読み方
5. 戦後教育の基本原則と教育基本法
6. 学校体系と学校教育法
7. 教育行政の組織・機能と関係法規
8. 教育職員の特性と教育公務員特例法

【教科書】

授業の際に講義用プリントと関係法令を配布する。

【参考書】

「全訂やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦著、教育開発研究所)

【成績の評価方法と評価項目】

小論文 (30%)
理解度テスト(40%)
学習態度 (30%)

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (ikeno@tcue.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

学校週五日制, 教育内容の縮減, 総合的な学習の新設, 選択学習の拡大, 特色ある学校づくり等により初等中等教育における改革が進もうとしている。これらにより, 学校における教育課程(カリキュラム)は大きく変化してくることは確実である。今後は, ますます各学校におけるカリキュラム編成能力, 各教師におけるカリキュラム編成能力が問われるところである。

本講では, その教育課程(カリキュラム)に焦点をあて, 教育課程(カリキュラム)の意味・種類, 教育課程の編成原理, 編成手順, 学習指導要領との関係, 学習指導要領の変遷, 隠れたカリキュラム(潜在的カリキュラム)等について考察を進めていくものである。

それらの意味を, 教育の根本原理やその実践の方法, 教師の仕事, 教育諸現象ともつなげながら, できるだけ具体的な事例に即してともに考えていくものとする。

【授業キーワード】

教育課程, カリキュラム, 学校教育法, 学習指導要領, 指導要録

【授業内容及び授業方法】

対話・講義形式(ともに考えることを重視する)

【授業項目】

- 1 インTRODクシヨンー教育課程論〇×チェックー
 - 2 学校にかかわる最近の動向と考えるべき課題
 - 3 新しい教育の方向ー新「指導要録」から考えるー
 - 4 学習指導要領・教育課程の変遷
 - 5 教育課程(カリキュラム)の意味と種類
 - 6 教育課程編成の原理・原則
 - 7 教育課程の編成と改善
 - 8 教育課程編成をめぐるいくつかの問題
 - 9 教科「工業」, 「情報」の教育課程
- ※受講生の実態や教育界の動き等により, 適宜内容や方法を変更・追加する場合もある。

【教科書】

- 田中耕治他『新しい時代の教育課程』, 有斐閣, 2005年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』(一部補訂版), 東山書房, 2004年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・情報編』(一部補訂版), 開隆堂, 2004年

【参考書】

- 柴田義松『教育課程ーカリキュラム入門ー』, 有斐閣, 2000年
- 文部省『高等学校学習指導要領解説・工業編』, 実教出版, 2000年
- 文科省『高等学校学習指導要領』(一部補訂版), 国立印刷局, 2004年
- 文科省『中学校学習指導要領解説・総則編』(一部補訂版), 東京書籍, 2004年

【成績の評価方法と評価項目】

- レポート試験, 期末試験(必要に応じて実施)
- ミニテスト, ミニレポート(必要に応じて実施)
- 授業への参加・参画度, 参加・参画態度, 出席率

【留意事項】

- 毎時間, 各自が教師になるという当事者意識をもって参加・参画することが望まれる。
- 話し合いの場に参加し, ともに考えることを重視する。
- 教職・「教職試験」情報などについても, 折に触れ紹介していくつもりである。

【担当教員】

吉本 康文

【教員室または連絡先】

非常勤講師

E-mail:yosimoto@mce.niit.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

工業科の教員として必要な基本的事項について解説する。工業技術教育の役割と目標、技術および技術教育の概念について習得する。

【授業キーワード】

工業科、普通教育、職業準備教育、工業技術教育、工業技術教育史、技術教育の概念

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、受講者の意見発表および論述(レポート)の機会も設けながら進める。

【授業項目】

1. 技術教育と人間形成
2. 学校教育の課題と工業科
3. 工業科教育の視点
4. 工業技術教育の役割と目標
5. 技術および技術教育の歴史(その1)
6. 技術および技術教育の歴史(その2)
7. 技術発達の歴史と今日的課題
8. わが国における工業技術教育の変遷
9. 生産技術の発展と技術教育
10. 技術および技術教育の概念(その1)
11. 技術および技術教育の概念(その2)
12. 普通教育としての技術教育の理念と役割
13. 工業技術教育の体系
14. 諸外国の工業技術教育の現状

【教科書】

編著者代表 山下省蔵・岩本洋「教職必修 工業科・技術科教育法」、実教出版株式会社

【参考書】

小林一也著「教職 工業の教育」、実教出版株式会社
元木健著「実践技術科教育体系1 技術と人間形成」、開隆堂
小山田了三「実践 工業科教育法」、東京電機大学出版局

【成績の評価方法と評価項目】

出席状況(授業への参加度)、レポート、及び期末試験の結果を総合的に評価する。

【留意事項】

※平成元号の奇数年度に開講される科目である。

【担当教員】

吉本 康文

【教員室または連絡先】

非常勤講師

E-mail:yosimoto@mce.niit.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

工業科の教員として必要な基本的事項について解説する。教育課程、指導計画の編成、および学習指導のあり方について習得する。

【授業キーワード】

教育課程、指導計画、高等学校学習指導要領、作業分析、学習指導、教材研究、授業研究

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、受講者の意見発表および論述(レポート)の機会も設けながら進める。

【授業項目】

1. 工業科の教育課程の変遷
2. 高等学校学習指導要領
3. 工業科の教育課程(その1)
4. 工業科の教育課程(その2)
5. 作業分析と指導計画(その1)
6. 作業分析と指導計画(その2)
7. 学習と学習指導
8. 工業科の学習指導(その1)
9. 工業科の学習指導(その2)
10. 学習指導の実際(その1)
11. 学習指導の実際(その2)
12. 教材研究・教材開発
13. 授業研究・授業評価
14. 施設・設備の運営と管理

【教科書】

編著者代表 山下省蔵・岩本洋「教職必修 工業科・技術科教育法」、実教出版株式会社

【参考書】

土井・長谷川・池本・大西共著「工業技術教育法 その原理と実際」、産業図書
小林一也著「教職 教育の方法」、実教出版株式会社
小山田了三「実践 工業科教育法」、東京電機大学出版局

【成績の評価方法と評価項目】

出席状況(授業への参加度)、レポート、及び期末試験の結果を総合的に評価する。

【留意事項】

※平成元号の偶数年度に開講される科目である。

特別活動論 Special Activity

講義 2単位 1学期

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

「各教科」「道徳」「総合的な学習の時間」と共に、学校教育における1つの重要な教育課程である「特別活動」の意義と特性を明らかにし、且つ、初等・中等教育の現場における「特別活動」の現代的役割を明らかにしつつ、学校教育の具体的な諸問題について考察する。

【授業キーワード】

教科外活動、学級活動、ホームルーム、クラブ活動、学校行事

【授業内容及び授業方法】

講義形式と討論形式を併用する。随時レポートを課す。

【授業項目】

1. 特別活動の意義
2. 学校教育と特別活動
3. 特別活動の成立と歴史的変遷
4. 特別活動の目標と基本的性格
5. 学級活動の特性と内容
6. ホームルーム活動の特性と内容
7. 児童会・生徒会活動の指導
8. クラブ活動・部活動
9. 学校行事と特別活動
10. 特別活動と教科教育
11. 特別活動と総合的な学習の時間
12. 特別活動の評価
13. 特別活動の課題と展望
14. その他

【教科書】

未定：開講時までに選定

【参考書】

「新学習指導要領の解説 特別活動」森嶋昭伸・鹿嶋研之助 学事出版
「特別活動論」片岡徳雄編著 福村出版
「特別活動」柴田義松 ぎょうせい

【成績の評価方法と評価項目】

概ね次のような割合に基づいて評価する。
期末試験(60%)・中間試験(30%)・レポート(10%)

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (ikeno@tcue.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

情報化社会のなかでの教育方法のあり方を、教育工学を中心に、その理論と実践について解説する。

【授業キーワード】

構成主義、コンピュータ、インターネット、視聴覚教育、行動主義、認知主義

【授業内容及び授業方法】

基本的理論については講義を中心に進めるが、実践的領域については必要に応じて演習課題を行う。

【授業項目】

1. 教育工学の背景
2. 行動主義
3. 認知主義
4. 社会構成主義
5. 人間の情報処理システム
6. 教材分析法
7. プレゼンテーション法
8. コンピュータ支援学習
9. 教育評価
10. 授業評価
11. 教育課程
12. コンピュータと教育
13. 授業演習

【教科書】

「教育工学への招待」 赤堀侃司著, JUSTSYSTEM

【成績の評価方法と評価項目】

授業実習50%、レポート50%

【担当教員】

滝沢 和彦

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

生徒指導に関わる具体的問題の事例分析を通して、生徒指導の意義・方法について考察を行う。

【授業内容及び授業方法】

こちらで資料を用意するほか、受講者自身による資料収集・分析・発表・討論(ディベート)を重視する。

【授業項目】

1. 生徒指導とは何か
2. 生徒指導の問題史
3. 生徒理解の方法
4. 生徒指導の方法原理－個別指導・集団指導
5. 教育課程と生徒指導
6. 進路指導と生徒指導
7. 学校における生徒指導体制

【教科書】

使用しない。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

レポート及び筆記試験による。

【担当教員】

定方 昭夫

【教員室または連絡先】

非常勤講師

E-mail: sadakata@msi.biglobe.ne.jp

【授業目的及び達成目標】

現今の様々な教育問題、「いじめ」「不登校」「学校崩壊」に対処するため、教職課程において教育相談の知識と技術が必須のものとなってきた。

この講義では「カウンセリング」の名にとらわれず人間の心を理解する上で基礎となる深層心理学をも論ずる。その意味で内容は広義の「心理療法論」となる。

又カウンセリングの新しい流れであるニュー・カウンセリングについても論ずる。心理療法の歴史と現状について理解を深めることを達成目標としたい。

【授業キーワード】

精神分析学、ユング心理学、カウンセリング、ニュー・カウンセリング

【授業内容及び授業方法】

講義に、心理テストの施行（講師は学生のテスト結果は見ず、自己採点する）、ボディ・ワークの実習を取り入れた内容とする。時々ビデオを見てもらい感想をレポートしてもらうこともある。

【授業項目】

1. フロイトの精神分析学(3回)
2. ユングの分析心理学(3回)
3. ロジャーズのカウンセリング(3回)
4. 診断と心理テスト(1回)
5. ブリーフ・セラピー(2回)
6. ニュー・カウンセリング(2回)

【教科書】

- ・鍋田編「心理療法を学ぶ」(有斐閣選書)
- ・配付資料

【成績の評価方法と評価項目】

出席回数にテストの成績を加味する。

講義内容の理解度と理解した内容を自分の言葉で表現できるという点を評価対象とする。

【留意事項】

教職課程の選択科目であるが、一般学生の聴講も歓迎する。

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師(ikeno@tcue.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

人類に共通する課題、我が国社会全体に係わる問題として、広く社会現象の中における人間、経済、福祉、教育、公民、環境・・・に関するテーマ(地球環境問題、少子高齢化問題、人口問題、人権・福祉教育、国際理解教育、高度情報化の問題等)について研究・分析・検討し、併せて、そのテーマについて学校教育における指導の可能性(情報科目、工業科目、総合的な学習の時間等)についても教育内容、教育方法の面(単元における指導内容の検討、指導計画の作成、展開計画、教材づくりなど)から検討していくようにする。

各自(ないしグループ)が文献ないし検討テーマについて報告したり、共通のテキストをもとに、輪読形式で読み進めたりしながら、報告内容について検討していく。
それらをもとに、各自(ないしグループ)が、自分(たち)なりの授業プランを作成できるようにする。

【授業キーワード】

現代社会、国際理解、地球環境、少子高齢化、情報化、人権・福祉、地域

【授業内容及び授業方法】

対話・講義・演習形式(共に考えることを重視する)

【授業項目】

- 1 現代社会と教育の問題
- 2 文献研究・輪読研究
・論文、先行実践等の報告文献等について、レポートし、その内容についてみんなで検討する。
- 3 授業プランづくり
・それらをもとに、各自が、理想とする授業プラン(単元レベル、本時レベル)を作成する。
・可能な範囲内で、教育現場において実践し、分析・考察する。(教育実習等で)

【教科書】

必要に応じて使用する。

【参考書】

- 文部省『特色ある教育活動の展開のための実践事例集(中学校・高校編)』、文部省、1999年
- 文部省『環境教育指導資料(中学校・高等学校編)』、文部省、1991年
- 文部省『環境教育指導資料(事例編)』、文部省、1995年
- 藤原和博『世界でいちばん受けたい授業』、小学館、2001年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』(一部補訂版)、東山書房、2004年

【成績の評価方法と評価項目】

- レジュメの作成と発表(内容、状況)
- 授業への参加・参画度、参加・参画態度、出席率

【留意事項】

- レジュメとしての資料はパワーポイント等で作成する。
- 必要に応じて、グループ編成をする場合もある。
- 毎時間、各自が教師になるという当事者意識を持って参加・参画することが望まれる。
- 話し合いの場に参加し、ともに考えることを重視する。

教育実習

Teaching Practice at High School

講義 3単位 通年

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟504室(加藤)

【授業目的及び達成目標】

実際の教育実習は、教育実習校において行われることになっているが、事前に本学において、講義およびガイダンスにより、教育実習に向けての心構え及び事前準備等を徹底させる。

【授業キーワード】

事前指導、自習希望校との交渉、指導案作成、模擬授業、事後指導

【授業内容及び授業方法】

数回の講義(含ガイダンス)及び個別指導を主とする。事前指導として実習前に模擬授業を実施する。事前・事後に数回レポートを課す。

【授業項目】

事前講義(ガイダンス)の主な項目

1. 教育実習とは何か
2. 教育実習の事前準備
3. 教育実習における観察
4. 教育実習における実地授業
5. 教育実習における参加
6. 学習指導案の作成
7. 教育実習生の心得と服務
8. その他

【教科書】

未定:開講時まで選定。

【参考書】

随時紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

事前・事後指導における評価、平常点、レポート、及び実習校からの評価等により判定する。

【留意事項】

(1)教科「工業」の教育実習希望者は、原則として前年度学年末までに、「職業指導論」「教育原理」「教育・青年心理学」の3科目に加え、「文部科学省令に定める科目」4科目の単位を既に修得していなければならない。また上記の「教育原理」「教育・青年心理学」以外の「教職に関する科目」(21単位)の中から、少なくとも3科目(6単位)を修得していなければならない。

(2)教科「情報」の教育実習希望者は、原則として前年度末までに、「教職に関する科目」の必修科目(12科目)の中から、少なくとも「情報科教育法」を含め8科目以上、および、「文部省令に定める科目」4科目の単位を修得しておかなければならない。

(3)上記いずれの希望書も、年度始め(4月)の教育実習ガイダンスに必ず出席すること。

【担当教員】

植野 真臣

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

教科「情報」に関する教育法について、講義、実習を行う。内容は、1. 普通教科「情報」と専門教科「情報」、2. 指導計画の作成、3. 教授学習過程と教科「情報」の特性、4. 問題解決の指導法、5. 情報と生活のかかわりかたについての指導法、6. 著作権の指導法、7. 情報倫理の指導法、8. ハードウェアの基礎、9. ソフトウェアの基礎の指導法、10. データ通信の基礎の指導法、11. 計測制御の指導法、12. コミュニケーションの基礎の指導法、13. アルゴリズムの指導法、14. 情報システムの指導法、15. 情報検索とデータベースの指導法、16. モデル化とシミュレーションの指導法、17. ネットワークの指導法、18. コンピュータデザインの指導法、19. 図形画像処理の指導法、20. マルチメディアの基礎、21. プレゼンテーションの指導法等を中心に講義し、課題作成、模擬授業などを行う。

【授業キーワード】

学習指導要領、教科「情報」、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、情報モラル、著作権、プレゼンテーション、学習指導案、評価、授業計画

【授業内容及び授業方法】

教科「情報」に関する教育法について、講義、実習を行う。講義、模擬授業を中心とする。ネット授業形式と実習との組み合わせによる授業を行う。

【授業項目】

- 学習指導要領改定の趣旨と総合学習
- ・情報教育の現状と教員養成の課題
- ・進路指導と生徒指導の現状と課題
- ・高校改革の成果と方向性
- ・教科「情報」新設の過程と趣旨
- ・普通教科「情報」と専門教科「情報」
- ・情報社会に参画する態度
- ・情報モラルの育成
- ・情報に関する法と紛争
- ・著作権法に関する新しい議論
- ・情報の表現とプレゼンテーション
- ・学習指導案作成の要点と評価
- ・学習指導計画の作成
- ・模擬授業の実施

【教科書】

文部省「高等学校学習指導要領解説 情報編」(開隆堂出版)
文部省「高等学校学習指導要領解説 総則編」(開隆堂出版)

【参考書】

大岩 元ほか共著「情報科教育法」(オーム社)

【成績の評価方法と評価項目】

レポート提出(40点)、学習指導案(20点)、模擬授業(20点)、面接試験(20点)により総合的にこなう。

【留意事項】

教科「情報」免許取得の意思があり、教育実習を履修予定であることが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/ueno>

【担当教員】

未定

【授業目的及び達成目標】

教科「情報」に関する教育法について、講義、実習を行う。内容は、1. 普通教科「情報」と専門教科「情報」、2. 指導計画の作成、3. 教授学習過程と教科「情報」の特性、4. 問題解決の指導法、5. 情報と生活のかかわりかたについての指導法、6. 著作権の指導法、7. 情報倫理の指導法、8. ハードウェアの基礎、9. ソフトウェアの基礎の指導法、10. データ通信の基礎の指導法、11. 計測制御の指導法、12. コミュニケーションの基礎の指導法、13. アルゴリズムの指導法、14. 情報システムの指導法、15. 情報検索とデータベースの指導法、16. モデル化とシミュレーションの指導法、17. ネットワークの指導法、18. コンピュータデザインの指導法、19. 図形画像処理の指導法、20. マルチメディアの基礎、21. プレゼンテーションの指導法等を中心に講義し、課題作成、模擬授業などを行う。

【授業キーワード】

学習指導要領、教科「情報」、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、情報モラル、著作権、プレゼンテーション、学習指導案、評価、授業計画

【授業内容及び授業方法】

教科「情報」に関する教育法について、講義、実習を行う。講義、模擬授業を中心とする。ネット授業形式と実習との組み合わせによる授業を行う。

【留意事項】

※H18年度は開講せず。